シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ		
必修選択	必修	（学則表記）	人間関係とコミュニケーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	最新介護福祉士養成講座１　人間の理解 最新介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、組織とその構造、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。		
到達目標	①チームケアや多職種と連携する上で重要となるコミュニケーションやチームマネジメントの必要性を述べることができる。 ②チームケアを実践するための情報共有の具体的な技法を理解し、実際に使うことができる。		
評価基準	テスト：50％　提出物：30％　授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	人間関係とコミュニケーションⅠ　コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ　認知症の理解　障害の理解		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	今井由美子	実務経験	○
実務内容	介護老人保健施設にて7年間介護業務に携わり、実習生の受け入れ時には日々の日誌の指導や介護技術の指導を担当していた。（介護福祉士）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション チームのコミュニケーションの意義①	介護チームのコミュニケーションの意義・目的
2	チームのコミュニケーションの意義②	多職種間のコミュニケーションの意義・目的
3	チームのコミュニケーションの実際①	報告・連絡・相談の方法や実際
4	チームのコミュニケーションの実際②	介護記録の意義・目的・種類・方法・留意点
5	チームのコミュニケーションの実際③	会議の種類・方法・留意点
6	チームのコミュニケーションの実際④	情報の活用と管理（ICTの活用、記録の管理、留意点）
7	介護サービスの特性と求められる マネジメント	介護実践におけるチームマネジメントの意義 ヒューマンサービスとしての介護サービス・介護現場で求められるチームマネジメント、 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み

8	チーム運営の基本①	ケアを展開するためのチームマネジメント 　ケアを展開するために必要なチームとその取り組み 　チームでケアを展開するためのマネジメント 　チームの力を最大化するためのマネジメント
9	チーム運営の基本②	
10	チーム運営と人材育成①	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 　介護福祉職のキャリアと求められる実践力（ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ・ﾘｽｸ・ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ） 　介護福祉職としてのキャリアデザイン 　介護福祉職のキャリア支援・開発（OJT、Off-JT、スーパービジョン、SDS） 　自己研鑽に必要な姿勢
11	チーム運営と人材育成②	
12	組織と運営管理①	組織の目標達成のためのチームマネジメント 　介護サービスを支える組織の構造 　介護サービスを支える組織の機能と役割 　介護サービスを支える組織の管理
13	組織と運営管理②	
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会の理解		
必修選択	必修	（学則表記）	社会の理解		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座２　社会の理解 最新介護福祉士養成講座14　障害の理解		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、社会保障制度の理解、生活と社会の関係性、地域共生社会の基礎的な知識を習得する		
到達目標	①個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえることができる。 ②対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアが理解できる。 ③日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて説明できる。 ④高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について説明できる。		
評価基準	筆記試験50％　小テスト・レポート40％　授業態度10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護の基本Ⅰ　介護の基本Ⅱ　生活支援技術Ⅱ　認知症の理解　障害の理解		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	谷内克敏、村田直子	実務経験	○
実務内容	谷内克敏：特養、デイサービスで介護及び生活相談員として従事。その後介護福祉士教員従事、その後障がい児童の療育、指導に携わる。（公認心理師、社会福祉士、介護福祉士） 村田直子：高齢者支援、地域福祉支援（社会福祉士）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 生活の基本機能	授業概要と達成課題の説明 生活の基本機能、ライフスタイルの変化、家族機能
2	社会・組織の機能と役割	社会・組織の機能と役割、グループ支援と組織化
3	地域・地域社会の概念	地域社会の概念、コミュニティの概念、自助・互助・共助・公助
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域福祉の充実、災害と地域社会
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域共生社会の理念と社会的背景
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域共生社会の実現に向けた方向性と取り組み
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域包括ケアの理念と地域包括ケアシステム
8	社会保障制度	社会保障の範囲、社会保障の目的と機能

9	日本の社会保障制度の発達	日本国憲法と社会保障
10	日本の社会保障制度の発達	日本の社会保障の変遷
11	日本の社会保障制度の発達	社会保障の実施体制、社会保険と社会扶助、社会保障制度の給付と負担
12	日本の社会保障制度のしくみ	年金保険
13	日本の社会保障制度のしくみ	医療保険
14	日本の社会保障制度のしくみ	雇用保険と労働者災害補償保険、各種社会扶助
15	前期のまとめ	前期の振返り
16	日本の社会保障制度のしくみ	現代社会における社会保障制度の課題
17	高齢者保健福祉の動向	介護保険法制定までの高齢者保健福祉、介護保険制度の下における高齢者保健福祉
18	高齢者保健福祉の動向	高齢者の状況と支援者の状況
19	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢者保健福祉関連法制の概要
20	高齢者保健福祉に関連する法体系	介護保険制度の動向
21	障害者保健福祉の動向	障害者福祉の歴史と現状
22	障害者保健福祉の動向	障害者の現状と障害者福祉施策の動向
23	障害者保健福祉に関連する法体系	障害の法的定義、障害者福祉に関連する法律と制度
24	障害者総合支援制度	障害者総合支援制度
25	介護実践に関連する諸制度	個人の権利を守る制度・施策
26	介護実践に関連する諸制度	保健医療に関する制度・施策
27	介護実践に関連する諸制度	貧困対策・生活困窮者に関する制度・施策
28	介護実践に関連する諸制度	地域生活を支援する制度・施策
29	後期のまとめ	後期の振返り
30	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	総合福祉Ⅱ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	総合福祉Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	介護保険事務講座テキスト		出版社	日本医療事務協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	介護実践に必要な知識という観点から、介護保険制度について基礎的な知識を身につける。 介護保険制度の給付管理業務を理解する。
到達目標	①介護保険の仕組み・介護サービスの内容を説明することができる。 ②介護報酬及び保険給付業務が理解できる。 ③介護給付費明細書を作成することができる。
評価基準	筆記試験50%　提出物20%　小テスト20%　授業態度：10%、
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士　福祉住環境コーディネーター2級　介護報酬請求事務技能検定試験
関連科目	社会の理解　総合福祉Ⅱ　介護の基本Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	続　美緒
実務経験	○
実務内容	病院（受付・会計・請求事務・病棟事務）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護保険制度の概要①	介護保険制度のしくみ
2	介護保険制度の概要②	給付管理業務の実際
3	介護報酬及び介護保険給付費①	介護報酬の基礎知識
4	介護報酬及び介護保険給付費②	居宅サービス
5	介護報酬及び介護保険給付費③	居宅介護支援
6	介護報酬及び介護保険給付費④	地域密着型サービス
7	介護報酬及び介護保険給付費⑤	介護予防・日常生活支援総合事業
8	介護保険制度の概要②	入所施設に関する介護保険制度のしくみ

9	介護報酬及び介護保険給付費⑥	施設サービス
10	介護報酬及び介護保険給付費⑦	介護福祉施設サービス費
11	介護報酬及び介護保険給付費⑧	介護保健施設サービス費
12	介護報酬及び介護保険給付費⑨	介護療養施設サービス費
13	介護報酬及び介護保険給付費⑩	短期入所サービス
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スポーツ福祉Ⅱ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ福祉Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	①介護予防運動スペシャリスト資格認定教本 ②高齢者の筋力トレーニング		出版社	①日本スポーツクラブ協会 ②講談社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	高齢者、障害者等に対する介護予防、要介護者への重症化予防に質する運動の指導ができる。		
到達目標	①高齢者・障害者・要介護者等に対する自立生活に向けた運動指導の必要性が理解できる。 ②高齢者・障害者・要介護者の特性や個別性に合わせた運動指導の全体像がわかる。 ③身体機能維持・向上に向けた運動プログラムの構築ができる。		
評価基準	実技試験：30%　筆記試験：30%　レポート：30%　授業態度：10%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士　中高老年期運動指導士　介護予防運動スペシャリスト		
関連科目	スポーツ福祉Ⅰ　こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ　発達と老化の理解　障害の理解		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	工藤喜代美	実務経験	○
実務内容	北海道スクールソーシャルワーカー。札幌市内児童クラブ障がい児童の巡回指導や相談業務。「NPO法人あ・りーさだ」で障がい者スポーツの普及活動。「NPO法人北海道タンポポ」で障がい児童を対象に水泳療育。（社会福祉士、児童指導員、財団法人障がい者スポーツ協会公認中級スポーツ指導員、介護予防運動スペシャリスト、レクリエーションインストラクター。）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護予防運動論①	介護予防運動に関する知識・介護予防のための運動の必要性
2	介護予防運動論②	身体運動に係わる概念用語に関する知識 レジャー、レクリエーション、スポーツ、体育、運動などの概念の理解
3	介護予防運動論③	中高老年期及び要介護者の身体特性に関する知識
4	介護予防運動論④	リハビリテーションに関する知識　　リハビリテーションの定義等
5	医学的視点からの 介護予防運動に関する知識	高齢者の病気の特徴、老年期症候群定義、高齢者に多くみられる疾患
6	理学的視点からの 介護予防運動に関する知識	高齢者の運動機能の特徴、介護予防のための運動効果、安全な運動のための留意点
7	救急救護に関する知識と実際①	高齢者に起こりやすい事故と病気
8	救急救護に関する知識と実際②	救急救護に必要なコミュニケーションの実際

9	測定評価に関する知識と実際	測定評価の目的と項目の選択 　測定方法の選択と測定結果の活用
10	介護予防運動の実際①	筋力及び持久力の維持・向上に関する知識と実践 　加齢に伴う持久力の低下と改善 　高齢者に適した運動プログラムと実際 調整力及び柔軟性の維持・向上に関する知識と実践 　介護予防運動としての調整力及び柔軟性とその実際 　運動指導上の留意点
11	介護予防運動の実際②	
12	介護予防運動の実際③	
13	介護予防運動の実際④	参加者を引き付ける運動指導・プレゼンテーション 運動の日常生活化に向けた動機付けの方法
14	介護予防運動の実際⑤	運動指導の実施と評価
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	福祉カウンセリングⅡ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	福祉カウンセリングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	Q&Aで分かる回想法ハンドブック		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	社会的認知など社会心理学の基礎を学び、かつコミュニケーションスキルを習得する演習を行うことにより、利用者や家族、チームに対するコミュニケーションスキルの向上につなげる。 回想法を学び、利用者の精神安定を図るツールとし、対象者のニーズや目的に応じた具体的な実践方法が分かる。 さらに、対人援助としてのカウンセリングスキルとして、回想法を活用することができる。
到達目標	①よい聞き手となり、より深い利用者理解への視点を身につけることができる。 ②高齢者のその人らしさを大事にし、その人の意思を尊重できる、人を人として尊敬できる。 ③対人援助の実践において、準備・計画を行い地域の中で実践することができる。
評価基準	テスト：50%　提出物：30%　授業態度：20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士　心理カウンセラー初級コース修了
関連科目	人間関係とコミュニケーションⅠ　福祉カウンセリングⅠ　認知症の理解
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	湯浅　雅代
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	回想法の基本①	回想法の歴史、意義、種類
2	回想法の基本②	回想法実施者の資質と守るべき倫理
3	回想法の目的と対象①	個人とグループ
4	回想法の目的と対象②	地域と施設
5	回想法の目的と対象③	認知症のある高齢者と健康な高齢者
6	ニーズに応じた回想法の実際と展開①	グループホームにおける回想法
7	ニーズに応じた回想法の実際と展開②	デイサービスにおける回想法

8	ニーズに応じた回想法の実際と展開③	さまざまなニーズに合わせた回想法
9	回想法の計画と準備①	テーマの決定と準備
10	回想法の計画と準備②	実施者の役割分担、計画準備上の留意点
11	回想法の実際①	実施中におけるさまざまな事態への対応①
12	回想法の実際②	実施中におけるさまざまな事態への対応②
13	回想法の実際③	記録について
14	回想法の効果と評価	回想法の評価方法
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	国際理解Ⅱ		
必修選択	選択必修	（学則表記）	国際理解Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	【使用テキスト】 ①まるごと日本のことばと文化　初級1　A2かつどう 【参考文献】 ②外国人のためのやさしく学べる介護のことば		出版社	①三修社 ②中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	介護の基本、応用、文化活動への参加から対象者を理解し、国家資格介護福祉士について理解することで日本の介護を国際的な視点から国内外に向けて発信できるようになる。 日本の国家資格ライセンスについて理解し、介護福祉に適応できる語彙、知識を深める。 国際社会の福祉の現状を理解し、その支援に必要な基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	①国際的に福祉にかかわる者として、必要とされる知識、技術がわかる。 ②国際社会で求められる社会人としての立ち居振る舞い、必要とされるコミュニケーション力が身につく。 ③国家試験ライセンスについて理解する。試験問題の文章の読み、解釈ができる。(問題が読めて、何を問われているかがわかる。解答は各教科の授業内容とする)
評価基準	テスト:30%　小テスト:30%　提出期限の厳守・参加:30%　提出物等の完成・内容:10%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	国際理解Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	多様な暮らしと福祉①	多様な生活及び文化について ・世界の人口と課題 ・言語 ・宗教と暮らし ・政治と福祉の動向
2	多様な暮らしと福祉②	
3	多様な暮らしと福祉③	
4	多様な暮らしと福祉④	
5	多様な暮らしと福祉⑤	

6	多文化共生社会の理解①	多文化共生社会について ・生活者としての様々な対象者 ・様々な対象者のおかれている現状 ・様々な対象者の課題 ・様々な対象者の自立に向けた支援
7	多文化共生社会の理解②	
8	多文化共生社会の理解③	
9	多文化共生社会の理解④	
10	多文化共生社会の理解⑤	
11	多文化共生社会の理解⑥	
12	多文化共生社会の理解⑦	
13	多文化共生社会の理解⑧	
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	介護の基本Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	介護の基本Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座２　社会の理解 最新介護福祉士養成講座４　介護の基本Ⅱ 最新介護福祉士養成講座13　認知症の理解 最新介護福祉士養成講座14　障害の理解		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を習得する
到達目標	①安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応、介護におけるリスクマネジメントの必要性が理解できる。 ②保健・医療・福祉に関する他職種の専門政と役割と機能を学び、多職種協働による介護の実践について理解できる。 ③介護従事者の健康管理や労働環境の管理に必要なことを理解できる。
評価基準	テスト：50%　小テスト・レポート：30%　授業態度：20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	介護の基本Ⅰ、認知症の理解、障害の理解
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	白川幸代、村田直子	実務経験	○
実務内容	白川幸代：介護老人福祉施設にて、実習生の指導、職員育成などに関り約１８年勤務。(介護福祉士) 村田直子：高齢者支援、地域福祉支援(社会福祉士)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価の方法など
2	協働する多職種の機能と役割①	多職種連携・協働とは、多職種連携・協働を要請する社会の動き
3	協働する多職種の機能と役割②	多職種連携・協働の必要性と効果
4	協働する多職種の機能と役割③	多職種連携・協働のためのチームづくり
5	協働する多職種の機能と役割④	課題解決に対する多職種のかかわり
6	協働する多職種の機能と役割⑤	多職種協働に求められるコミュニケーション能力

7	協働する多職種の機能と役割⑥	保健・医療・福祉職の役割と機能
8	協働する多職種の機能と役割⑦	多職種連携・協働の実際
9	多職種連携・協働による支援①	認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制
10	多職種連携・協働による支援②	認知症の人を支える多職種連携と協働
11	多職種連携・協働による支援③	障害のある人の生活を地域で支えるサポート体制
12	多職種連携・協働による支援④	障害のある人を支える多職種連携と協働
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント①	介護における安全の確保
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント②	尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント
15	前期のまとめ	前期の振返り
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント③	福祉サービスに求められる安全・安心
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント④	事故防止のための対策
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤	感染予防の基礎知識
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥	感染予防と感染対策
20	介護従事者の安全①	介護従事者を守る団体と法制度
21	介護従事者の安全②	介護に従事する人の健康問題と予防
22	介護従事者の安全③	こころの健康管理
23	介護従事者の安全④	身体の健康管理
24	介護従事者の安全⑤	労働環境の整備
25	高齢者福祉と介護保険制度①	高齢者福祉の動向
26	高齢者福祉と介護保険制度②	高齢者福祉に関連する法律と制度
27	障害者福祉と障害者保健f櫛制度①	障害者福祉の動向
28	障害者福祉と障害者保健f櫛制度②	障害者福祉に関連する法律と制度
29	後期のまとめ	後期の振返り
30	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	コミュニケーション技術Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	コミュニケーション技術Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	①最新介護福祉士養成講座５コミュニケーション技術 ②30時間でマスター　Ｗｏｒｄ＆Ｅｘｃｅｌ２０１３	出版社	①中央法規出版株式会社 ②実教出版社		

科目の基礎情報②			
授業のねらい	情報を適切にまとめ、発信するために介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。		
到達目標	①介護福祉職チーム、多職種協働チームにおける説明の技術（資料作成、プレゼンテーション）について理解し活用できる。 ②パーソナルコンピューターの基礎知識を理解し、コンピューターを使って必要な情報を収集・整理してニーズに合わせて情報を活用及び管理できる。		
評価基準	テスト：50%　課題提出：30%　授業態度：20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護過程Ⅰ・Ⅱ・人間関係とコミュニケーションⅠ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	今井由美子	実務経験	○
実務内容	介護老人保健施設にて7年間介護業務に携わり、実習生の受け入れ時には日々の日誌の指導や介護技術の指導を担当していた。（介護福祉士）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護におけるチームのコミュニケーションの意義①	介護職チーム、多職種間におけるコミュニケーションの意義・目的
2	介護におけるチームのコミュニケーションの意義②	報告・連絡・相談の技術
3	介護におけるチームのコミュニケーションの実際③	説明のための記録の実際、記録管理の留意点
4	事例検討に関する技術①	事例検討のための資料作成の理解
5	事例検討に関する技術②	事例検討のための資料作成の理解
6	事例検討に関する技術③	事例検討のための資料作成の理解
7	情報の活用と管理のための技術①	情報の活用と管理、個人情報の保護と管理
8	情報の活用と管理のための技術②	情報の活用の実際①
9	情報の活用と管理のための技術③	情報の活用の実際②
10	情報の活用と管理のための技術④	情報の活用の実施③

11	チームコミュニケーションにおける説明の技術①	プレゼンテーションの基礎
12	チームコミュニケーションにおける説明の技術②	発表スライド資料の作成の留意点、資料管理の留意点
13	チームコミュニケーションにおける説明の技術③	発表スライド資料の作成
14	チームコミュニケーションにおける説明の技術④	学習内容についてプレゼンテーションの実施
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	生活支援技術Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	120
使用教材	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ 最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ 最新　介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。 ③人生・生活の豊かさや満足度を支援する視点を学ぶことができる。
評価基準	テスト：80％　提出物：20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	岩田文子	実務経験	○
実務内容	知的障害者支援施設従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた介護	車いすのメンテナンス
3	自立に向けた介護	車いすのメンテナンス
4	自立に向けた介護	円背の方の生活支援
5	自立に向けた介護	円背の方の生活支援
6	自立に向けた介護	パーキンソンの方の生活支援
7	自立に向けた介護	パーキンソンの方の生活支援

8	自立に向けた介護	車の乗り降り介助
9	自立に向けた介護	車の乗り降り介助
10	自立に向けた介護	在宅での訪問入浴、簡易浴槽の使い方
11	自立に向けた介護	在宅での訪問入浴、簡易浴槽の使い方
12	自立に向けた介護実践	安全で的確な介護実践
13	自立に向けた介護実践	安全で的確な介護実践
14	まとめ	筆記試験を実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う
16	自立に向けた介護	感染物の処理対応
17	自立に向けた介護	感染物の処理対応
18	福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と活用
19	福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と活用
20	福祉用具の意義と活用	ケアテックの現状と課題
21	福祉用具の意義と活用	介護ロボット各論
22	福祉用具の意義と活用	介護IcT各論
23	福祉用具の意義と活用	科学的介護基礎論
24	福祉用具の意義と活用	ケアテック導入の実践理論
25	福祉用具の意義と活用	ケアテック導入の実践理論
26	福祉用具の意義と活用	科学的介護の実践理論
27	福祉用具の意義と活用	科学的介護の実践理論
28	福祉用具の意義と活用	ケアテック総論
29	まとめ	筆記試験を実施する
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	生活支援技術Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	4	120
使用教材	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ 最新　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ 最新　介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。		
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。 ③人生・生活の豊かさや満足度を支援する視点を学ぶことができる。		
評価基準	テスト：80％　提出物：20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	川村諭美・植田唯・岩田文子	実務経験	○
実務内容	川村諭美：織物・染物制作、障害者支援施設従事経験 植田唯：管理栄養士として福祉施設従事 岩田文子：知的障がい者支援施設従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた介護	生活を豊かにする環境設定
3	自立に向けた介護	生活を豊かにする環境設定
4	自立に向けた介護	生活を豊かにする環境設定
5	自立に向けた家事の介護	家事の介助技法／洗濯・衣類・寝具の衛生管理
6	自立に向けた家事の介護	家事の介助技法／裁縫
7	自立に向けた家事の介護	家事の介助技法／裁縫

8	まとめ	筆記、実技作品試験を実施する・テストの振り返りと総まとめを行う
9	自立に向けた家事の介護	家事の意義と目的
10	自立に向けた家事の介護	衛生管理と食中毒予防について、筆記試験の実施
11	自立に向けた家事の介護	調理技術の習得
12	自立に向けた家事の介護	調理技術の習得
13	自立に向けた家事の介護	調理技術の習得
14	自立に向けた家事の介護	家事の意義と目的／掃除・ごみ捨て
15	自立に向けた家事の介護	家事の介助技法／買い物家庭経営・家計の管理、筆記試験を実施する
16	自立に向けた家事の介護	家事の介助技法／家庭経営・家計の管理
17	まとめ	筆記試験を実施する
18	自立に向けた居住環境の整備	地域生活を支援する制度や施策の概要／バリアフリー新法、バリアフリーとユニバーサルデザイン
19	自立に向けた居住環境の整備	安全で心地よい生活の場づくり／住宅改修、住宅のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン
20	自立に向けた居住環境の整備	地域生活を支援する制度や施策の概要／高齢者住まい法、福祉のまちづくり
21	自立に向けた居住環境の整備	安全で心地よい生活の場づくり／生活環境の整備と安全で住み心地のよい生活の場つくり
22	自立に向けた居住環境の整備	施設での集住の工夫、留意点／ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり
23	まとめ	筆記試験を実施する・テストの振り返りと総まとめを行う
24	人生の最終段階における介護	終末期における介護／終末期にある人への介助方法と留意点
25	人生の最終段階における介護	終末期における介護／危篤時の介護の実際
26	人生の最終段階における介護	臨終時の対応／エンゼルケア
27	人生の最終段階における介護	臨終時の対応／死後の支援方法
28	人生の最終段階における介護	終末期の警護における他職種の役割と協働
29	人生の最終段階における介護	グリーフケア／悲嘆、受容のプロセス、グリーフケアの方法と留意点
30	まとめ	筆記試験を実施する

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	介護過程Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	介護過程Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座９ 介護過程		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する		
到達目標	①対象者の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護計画を介護過程を展開して立案できる ②介護実習を通じて実施した介護計画を振り返り、より良い介護について文献を用いて考える。 ③質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる ④介護計画の実践事例をもとに研究し、その内容をまとめ発表できる		
評価基準	テスト：50%　課題提出：30%　授業態度：20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ　　介護実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅡC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	今井由美子	実務経験	○
実務内容	今井由美子：介護老人保健施設にて7年間介護業務に携わり、実習生の受け入れ時には日々の日誌の指導や介護技術の指導を担当していた。（介護福祉士）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	介護過程の実践的展開①	「介護過程」展開の実際　事例を読み情報を整理する
2	介護過程の実践的展開②	「介護過程」展開の実際　介護過程を展開し支援方法を考える
3	介護過程の実践的展開③	「介護過程」展開の実際　他者の意見を聞いて支援方法を考える
4	介護過程の実践的展開④	「介護過程」展開の実際　事例を読み情報を整理し、介護過程を展開する
5	介護過程の実践的展開⑤	「介護過程」展開の実際　他者の意見を聞いて支援方法を考える
6	介護過程の実践的展開⑥	実習ⅡCにおける個別援助計画の振り返り・まとめ
7	介護過程の実践的展開⑦	実習ⅡCにおける個別援助計画の振り返り・まとめ
8	介護過程の実践的展開⑧	実習ⅡCにおける個別援助計画の振り返り・まとめ

9	介護過程の実践的展開⑨	実習ⅡＣにおける個別援助計画の振り返り・まとめ
10	利用者の生活と介護過程の展開①	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開（訪問介護）
11	利用者の生活と介護過程の展開②	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開（訪問介護）
12	利用者の生活と介護過程の展開③	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開（訪問介護）
13	利用者の生活と介護過程の展開④	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開
14	利用者の生活と介護過程の展開⑤	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開
15	前期まとめ	前期の振り返り
16	研究とは	研究することの意義
17	研究方法①	研究の進め方について／仮説を立てる・研究テーマの検討
18	研究方法②	研究テーマの検討／文献研究・先行研究とは
19	研究方法③	文献研究・研究計画の書の作成
20	研究方法④	研究論文のまとめ方・抄録の作成について
21	研究方法⑤	データの検証と論文作成
22	研究方法⑥	論文作成
23	研究方法⑦	論文作成
24	研究方法⑧	抄録作成・発表の準備
25	研究方法⑨	抄録作成・発表の準備
26	研究方法⑩	発表準備
27	研究方法⑪	発表準備
28	研究発表会	事例を用いた介護研究発表を行う
29	研究発表会	事例を用いた介護研究発表を行う
30	後期まとめ	後期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	介護総合演習　Ⅱ		
必修選択	必修	（学則表記）	介護総合演習　Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。
到達目標	①利用者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーを実際の行動としてとることができる。 ②実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 ③介護実習の振り返りや他者とのディスカッションを通じて自己を客観的に振り返り、次に向けた課題を明確化できる。 ④個別ケアの多様なサービス形態のあり方、その中での多職種の連携が理解できる。 ⑤自己の介護感を明らかにして、自立支援に向けた介護を実践するためには将来にわたって知識・技術の向上を目指すことの必要性がわかる。
評価基準	テスト：50%　課題提出：30%　授業態度：20%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	介護過程Ⅰ・Ⅱ　介護実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅡC
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	白川幸代　　実務経験　○
実務内容	白川幸代：介護老人福祉施設にて、実習生の指導、職員育成などに関り約１８年勤務。（介護福祉士）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ⅡC要項確認	実習の意義と目的、達成課題の説明。
2	実習準備計画実施	利用者の暮らしを知る。 介護技術の実践を軸にした介護実習 家族・近隣住民にも目を向ける介護実習 介護過程を展開する介護実習
3	実習準備計画実施	
4	実習準備計画実施	
5	実習オリエンテーション	実習の目的・概要、おもな実習内容、実習先の理解
6	中間指導日	個別指導（情報の整理・活用、生活上の課題・計画立案）
7	実習ⅡC振り返り	介護過程の展開のまとめ、振り返り。

8	実習ＩＢ要項説明	介護実習ＩＢの意義と目的、達成課題の説明。 利用者の暮らしを知る、家族・近隣住民にも目を向ける介護実習
9	直前オリエンテーション	実習の目的・概要、おもな実習内容、実習先の理解
10	中間指導日	個別指導（情報の整理・活用、生活上の課題・計画立案）
11	実習ＩＢ振り返り	介護実習後の学習内容と方法
12	まとめ	前期の振り返り
13	実習報告会準備	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図るための準備
14	実習報告会	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図る
15	実習報告会	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図る
16	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
17	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
18	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
19	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
20	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
21	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
22	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
23	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
24	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
25	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
26	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
27	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
28	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
29	介護実践の科学的探究の発表	介護総合演習における知識と技術の統合化 介護総合演習における介護感の形成
30	後期のまとめ	後期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	介護実習ⅡC		
必修選択	必修	（学則表記）	介護実習ⅡC		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	5	160
使用教材	最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。
到達目標	①受け持ち利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程が理解できる ②利用者の個別ケアを実施するために必要な介護が理解でき、他職種協働や関係機関との連携について理解する ③介護という職業の意義、職業倫理について考え、理解する
評価基準	達成目標ごとに評価項目を決め、５点法で評価（実習指導者５０％、教員５０％）
認定条件	出席が総時間数の５分の４以上ある者 成績評価が３以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	
備考	
担当教員	今井由美子、白川幸代、貞広知可　　実務経験　○
実務内容	今井由美子：介護老人保健施設にて7年間介護業務に携わり、実習生の受け入れ時には日々の日誌の指導や介護技術の指導を担当(介護福祉士) 白川幸代：介護老人福祉施設にて、実習生の指導、職員育成などに関り約１８年勤務。(介護福祉士) 貞広知可：身体障がい者支援施設に７年勤務後にケアマネージャーとして在宅支援に携わる。(介護福祉士・介護支援専門員)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ⅡC	事前：多様な介護現場を理解する 実習中：利用者・家族とのかかわりをとおしてコミュニケーションを図り、利用者を理解する ：日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し学ぶ ：他職種の役割と他職種との連携について理解する ：介護過程を展開し、個別援助計画の立案、実施、評価、修正を行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	介護実習ＩＢ		
必修選択	必修	（学則表記）	介護実習ＩＢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	70
使用教材	最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。
到達目標	①様々な施設の目的、地域における役割、法的位置づけが理解できる。 ②実習に際して、社会人としてのマナーを守り、利用者・家族とのコミュニケーションを通して、人間関係の構築ができる。 ③利用者には様々な暮らし方や日常生活があり、個々の生き方を尊重することの重要性に気付くことが出来る。 ④地域社会で暮らす高齢者や障がいのある方が福祉サービスの利用に際しても、その人らしさを維持するために何が必要なのかという個別ケアの重要性が理解できる。 ⑤利用者の個別ケアを実施するために、多職種協働や関係機関との連携について知ることができる。
評価基準	達成目標ごとに評価項目を決め、５点法で評価（実習指導者５０％、教員５０％）
認定条件	出席が総時間数の５分の４以上ある者 成績評価が３以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	
備考	
担当教員	今井由美子、白川幸代、貞広知可　　実務経験　○
実務内容	今井由美子：介護老人保健施設にて7年間介護業務に携わり、実習生の受け入れ時には日々の日誌の指導や介護技術の指導(介護福祉士) 白川幸代：介護老人福祉施設にて、実習生の指導、職員育成などに関り約１８年勤務。(介護福祉士) 貞広知可：身体障がい者支援施設に７年勤務後にケアマネージャーとして在宅支援に携わる。(介護福祉士・介護支援専門員)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ＩＢ	事前：施設の法的位置づけ、概要について事前学習をしておく。 実習中：援助活動を通し、利用者とコミュニケーションを行い、人間関係を構築する。 ：生活支援の実際に参加または観察し、利用者に関わる多職種の役割と連携を知る。 ：生活支援の実際に参加または観察し、利用者に関わる多職種の役割と連携を知る。 その方らしい生活を維持するための個別ケアを知る。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	発達と老化の理解		
必修選択	必修	（学則表記）	発達と老化の理解		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。
到達目標	①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴について説明できる。 ②ライフサイクル各期における様々な発達課題について説明できる。 ③ライフサイクル各期における特徴的な疾患や障害等が説明できる。 ④老化に伴う身体的・心理的・社会的変化が生活に及ぼす影響について説明できる。 ⑤高齢者に多い疾病や生活への影響、健康の維持増進を含めた生活支援について説明できる。
評価基準	筆記試験：70%　　小テスト・授業内課題など：20 %　　授業態度：10 %
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が 3 以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	人間関係とコミュニケーション　社会の理解　介護の基本Ⅰ・Ⅱ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ　　障害の理解Ⅰ・Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	谷内克敏、松井さおり　　実務経験　○
実務内容	谷内克敏：特養、デイサービスで介護及び生活相談員として従事。その後介護福祉士教員従事、障がい児童の療育、指導に携わる。（公認心理師、社会福祉士、介護福祉士） 松井さおり:1999年より看護師として大学病院や高齢者施設などに勤務。高齢者施設では終末期の利用者の生活対応や救急対応、家族への説明や医師との対応、介護福祉士への指導を行う。（看護師）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人間の成長と発達の基礎的理解①	オリエンテーション 人間の成長と発達の考え方 成長・発達の考え方と環境
2	人間の成長と発達の基礎的理解②	成長・発達の原則・法則 成長発達に影響する要因
3	発達段階と発達課題 ①	発達理論　/ 発達課題とは何か / 発達段階と発達課題
4	発達段階と発達課題 ②	発達理論　/ 発達課題とは何か / 発達段階と発達課題
5	発達段階と発達課題 ③	身体的機能の成長と発達
6	発達に伴う特徴的な疾病や障害	発達段階別の特徴的な疾病や障害
7	発達段階と発達課題 ④	心理的機能の発達

8	発達段階と発達課題 ⑤	社会的機能の発達
9	老年期の特徴と発達課題 ①	老年期の定義・老化とは
10	老年期の特徴と発達課題 ②	老年期の発達課題
11	老年期の特徴と発達課題 ③	老年期の発達課題
12	老年期の特徴と発達課題 ④	老年期をめぐる今日的課題
13	老化に伴うこころとからだの変化と生活①	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下
14	老化に伴うこころとからだの変化と生活②	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下と生活への影響①
15	まとめ	前期の振り返り 知識の確認
16	老化に伴うこころとからだの変化と生活③	加齢に伴う生理機能や身体機能の低下と生活への影響②
17	老化に伴うこころとからだの変化と生活④	老化による認知機能・知的機能の変化　①
18	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑤	老化による認知機能・知的機能の変化　②
19	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑥	パーソナリティの変化
20	老化に伴うこころとからだの変化と生活⑦	老化と動機付け・適応
21	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	社会の中での生活上の課題
22	高齢者と健康①	健康長寿に向けての健康
23	高齢者と健康②	高齢者の症状の現れ方の特徴　老年症候群　廃用症候群
24	高齢者と健康③	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点　①
25	高齢者と健康④	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点　②
26	高齢者と健康⑤	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点　③
27	高齢者と健康⑥	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点　④
28	高齢者と健康⑦	高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点　⑤
29	保険医療職との連携	多職種連携　・まとめ
30	総まとめ	後期の振り返り 知識の確認

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	障害の理解		
必修選択	必修	（学則表記）	障害の理解		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新・介護福祉士養成講座１４　障害の理解		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周辺環境への支援を理解するための基礎的な知識を身につける
到達目標	①障害の概念や基礎的理念を介護の専門職として支援に繋げることができる ②障害の基礎的理解を基に、関係制度やサービスを理解し障害のある人の生活支援について考えることができる
評価基準	筆記試験：50%　レポート：30%　授業態度：20%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	人間の尊厳と自立　社会の理解　介護の基本Ⅰ・Ⅱ　こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ　認知症の理解 発達と老化の理解　医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	村田直子、貞広知可
実務経験	○
実務内容	村田直子：高齢者支援・地域福祉支援　（社会福祉士） 貞広知可：身体障がい者支援施設に７年勤務後にケアマネージャーとして在宅支援に携わる。（介護福祉士・介護支援専門員）

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 障害の基礎的理解①	授業概要、障害の概念 ICIDHとICFについて
2	障害の基礎的理解②	障害者福祉の基本理念と障害者をとりまく環境（ノーマライゼーションの理解と歴史、リハビリテーション、インクルージョン、バリアフリーなど）
3	障害者福祉に関連する制度①	障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法
4	障害者福祉に関連する制度②	障害者福祉の現状と施策（障害に係る制度や手帳、法律、サービスなど）
5	障害者福祉に関連する制度③	障害者の就労支援について 成年後見制度について
6	障害者福祉制度と介護保険制度	制度の違い、サービスの併用について
7	まとめ①	これまでの学習の振り返り
8	障害の心理的理解	障害が及ぼす心理的影響、障害の受容過程

9	障害の医学的・心理的側面の 基礎的理解、 障害のある人の生活と障害の 特性に応じた支援①	身体障害の基本的理解
10		内部障害　1、心臓機能障害のある人の理解
11		内部障害　2、腎臓機能障害のある人の理解
12		内部障害　3、呼吸機能障害のある人の理解
13		内部障害　4、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害のある人の理解
14		内部障害　5、ヒト免疫不全ウィルスによる免疫機能障害のある人の理解、6、肝機能障害のある人の理解
15	まとめ②	これまでの学習の振り返り
16	障害の種類、原因と特性、生活に及ぼす 影響と支援	視覚障害のある人の理解
17		聴覚・言語障害のある人の理解、重複障害のある人の理解
18	まとめ③	これまでの学習の振り返り
19	障害の医学的・心理的側面の 基礎的理解 障害のある人の生活と障害の 特性に応じた支援②	肢体不自由のある人の理解Ⅰ
20		肢体不自由のある人の理解Ⅱ
21		知的障害のある人の理解
22		精神障害のある人の理解
23		発達障害のある人の理解
24		高次脳機能障害のある人の理解
25		難病のある人の理解
26	まとめ④	ここまでの学習の振り返り
27	連携と協働	地域のサポート体制、チームアプローチ
28	家族への支援①	家族の障害の受容と本人の障害の受容、障害のある人の家族の状況
29	家族への支援②	家族の介護力評価と介護負担の軽減
30	まとめ⑤	これまでの学習の振り返り

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	医療的ケアⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	医療的ケアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	3	48
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15　医療的ケア		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。
到達目標	①喀痰吸引について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順とその留意点を述べることができる。 ②経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順とその留意点を述べることができる。
評価基準	筆記試験：70%　レポート：20%　授業態度：10%
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	介護の基本Ⅱ　こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ　発達と老化の理解　障害の理解　医療的ケアⅠ・Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	富田みゆき、一條理絵
実務経験	○
実務内容	富田みゆき：大学病院、通所リハビリテーション施設で看護師として看護・介護業務に従事。(看護師) 一條理絵：北海道内の病院、保険センター、デイサービスにて計１６年勤務(看護師)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業オリエンテーション 健康状態の把握	身体・精神状態の平常状態について
2	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論①	呼吸のしくみと働き いつもと違う呼吸状態、呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害
3	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論②	喀痰の吸引とは 喀痰を生じて排出するしくみ、喀痰の貯留を示す状態、喀痰の吸引が必要な状態
4	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論③	人工呼吸器が必要な状態 人工呼吸器のしくみ、非侵襲的・侵襲的人工呼吸療法

5	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論④	人工呼吸器装着者の生活支援 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医療職との連携
6	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論⑤	呼吸器系の感染と予防 呼吸器系の感染が起きた可能性を示す状態、呼吸器系感染の予防
7	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論⑥	喀痰の吸引により生じる危険の種類 急変・事故発生時の対応
8	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論⑦	子どもの吸引について 子どもの吸引の物品と留意点、利用者・家族の気持ちに沿った対応と留意点
9	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引実施手順解説①	喀痰の吸引で用いる器具・器材とそのしくみ 清潔保持
10	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引実施手順解説②	喀痰吸引の技術と留意点 吸引前の利用者の状態観察と留意点、吸引前の利用者の準備
11	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引実施手順解説③	喀痰吸引の技術と留意点 吸引実施に伴う利用者の身体変化の確認と医療職への報告、事後の片付け方法と留意点
12	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引実施手順解説④	喀痰吸引に必要な根拠に基づくケア
13	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引実施手順解説⑤	喀痰吸引に関するこれまでのまとめ 筆記試験
14	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論①	消化器系のしくみと働き 消化・吸収とよくある消化器の症状
15	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論②	経管栄養法とは 経管栄養が必要な状態、経管栄養のしくみと種類
16	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論③	経管栄養で注入する内容について 経管栄養実施上の留意点
17	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論④	経管栄養に関係する感染と予防 経管栄養を行なっている状態の感染予防、口腔ケアの重要性
18	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論⑤	経管栄養により生じる危険の種類 急変・事故発生時の対応
19	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論⑥	子どもの経管栄養について 子どもの経管栄養の物品と留意点、利用者・家族の気持ちに沿った対応と留意点
20	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説①	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 清潔保持
21	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説②	経管栄養の技術と留意点 経管栄養前の利用者の状態観察と留意点、経管栄養前の利用者の準備
22	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説③	経管栄養の技術と留意点 経管栄養実施に伴う利用者の身体変化の確認と医療職への報告、事後の片付け方法と留意点
23	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説④	経管栄養に必要な根拠に基づくケア
24	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説⑤	経管栄養に関するこれまでのまとめ 筆記試験

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	医療的ケアⅢ		
必修選択	必修	(学則表記)	医療的ケアⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	介護福祉科	1	15
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15　医療的ケア		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」の演習において、シュミレーターを使用してケア実施の流れと 留意点を学び、安全に行うための技術を習得する。
到達目標	①喀痰吸引　シュミレーターを用いて、一人で実施できる。 ②経管栄養　シュミレーターを用いて、一人で実施できる。 ③救急蘇生　シュミレーターを用いた救急蘇生の一連の流れを理解できる。
評価基準	★演習5回目以上で手順通りに実施できれば、成績評価は3以上とする。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	介護福祉士
関連科目	医療的ケアⅠ・Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	富田みゆき、一條理絵　　実務経験　○
実務内容	富田みゆき：大学病院、通所リハビリテーション施設で看護師として看護・介護業務に従事。(看護師) 一條理絵：北海道内の病院、保険センター、デイサービスにて計１６年勤務(看護師)

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	経管栄養 胃ろうまたは腸ろう	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の演習 演習5回以上
2	経管栄養 経鼻	経鼻経管栄養の演習 演習5回以上
3	喀痰吸引 口腔内	口腔内の喀痰吸引の演習 演習5回以上
4	喀痰吸引 鼻腔内	鼻腔内の喀痰吸引の演習 演習5回以上
5	喀痰吸引 気管カニューレ内部	気管カニューレ内部の喀痰吸引の演習 演習5回以上

6	救急蘇生法	救急蘇生法 演習1回以上